

Vol.63

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00060386

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



資料館だより

CONTENTS

- 1… TOPICS
- 2… 展示活動報告／投稿
- 3… 投稿(続き)
- 4… 開催案内／資料館長から

水谷清 作「闘牛」
(油彩画、部分、
1959(昭和34)年
春陽会出展作品)



TOPICS

学生企画展「写真で見る前身校Part II—キンダイ医学の源流を辿る—」を開催



ミュージアムツアーの様子

今般の新型コロナウイルス感染予防対策として、年度の前半は授業もリモートとなる中、毎年、好評を博している学生企画展の開催が危ぶまれていましたが、11月9日(月)から1月20日(水)まで例年どおり開催することができました。

学生企画展は、学芸員の資格を取得しようとする学生が受講する「博物館実習」の総仕上げとして資料館展示室を用いて企画から広報、展示レイアウトから、セッティングまですべての学芸員業務を実践するのです。本年度は、「写真で見る前身校Part II—キンダイ医学の源流を辿る—」と題して、医学類の前身校である旧制の官立金沢医科大学とその前身となる諸学校について、四つの切り口から解説しました。

今回の展示では、金沢大学医学部記念館の協力を得て、普段なかなか見る機会のない有名な『解体新書』や日本に数冊しか現存していないと言われる『ドドネウス草木誌』(1644年アントワープ版)、目の仕組みを表す眼球模型など、非常に珍しい資料を展示することができました。

また、5日間にわたってミュージアムツアーが実施され、学生が調べたこと、展示に当たって注意したことなど、解説を行いました。なお、この様子は、YouTubeの金沢大学公式チャンネルでご覧いただけますので、ぜひご覧ください。



(YouTube
金沢大学公式
チャンネル)

展示活動報告

アウト
リーチ展

出張写真展「あのころの金沢大学」開催

会期 令和2年10月16日～11月4日 会場 金沢城公園河北門



本学のホームカミングデイに合わせて金沢城公園で開催している写真展「あのころの金沢大学」も今年で河北門に会場を移してから5回目となります。

今年の写真展は、写真パネルを一新し、城内キャンパスがあったころの金沢大学の各キャンパスの様子を紹介しています。

20日間の開催期間中に9,200人余の入場者と、昨年19日間で14,000人余と比較すると大きく減少しましたが、コロナ禍での開催にあって、多くの方に御覧いただきました。

投稿

学生企画展を通して感じたこと ～企画から展示まで～

【全体を振り返って】

今回の学生企画展の準備は、コロナ禍でなかなか実習が行えないという状況であったため、例年とは異なり、資料館が開催を決定していたテーマを用いる形で7月から始まりました。事前に決定していたテーマではありましたが、具体的なコンセプト、伝えたいメッセージをみんなで決めることから始まり、各班に分かれての作業は11月頭まで続きました。

私は全体のリーダーとして主に、全体のスケジュールの把握や先生方、資料館の方々との連絡、複数班で解決しなくてはならないことの相談や企画書の作成などを行いました。初めてのことでわからないことばかりでしたが、先生方、資料館の方々、TAの岡部さんにたくさん助けていただきました。心より感謝申し上げます。

15名で一つの展示を企画するというのは、学生全員が初めての試みであり、難しさも感じましたが、よりよいものになるように時間をかけて何度も相談してきたものが、いざ展示として実現した時は達成感がありました。そして、何より(色々と迫りくる締め切りはありましたが…)純粋に楽しみながら準備できたというのがとても良い経験であったと思います。

人間社会学域人文学類 4年 大木紗英子

【ミュージアムツアーの振り返り】

わたしたちは今回の学生企画展で、会期中の12月14日から12月18日までのあいだに、全5回のミュージアムツアーを企画・開催しました。これらのミュージアムツアーでは、展示資料や展示に取りあげられている人物についての知られざるエピソードや、企画や展示作業において工夫したことや苦労したことなどを紹介しました。それらは、展示を企画するなかで金沢の医学教育やその発展に貢献した人物について調べているときや、実際に展示作業にたずさわるときに気づいたことであります。このように展示だけでは伝えきれないことや、実際に資料に触れ、配置していくなかで感じたことなどを、ミュージアムツアーをとおして伝えたいと思いました。それぞれの展示資料や人物の魅力、そして、それらに対するわたしたち一人ひとりの想いを伝えることができたと思います。また、今年はコロナウイルス感染症対策のため、学外からの来館者を制限せざるをえませんでした。そこで、動画を撮影・編集してインターネット上で公開するという、これまでとは異なる新しい方法でミュージアムツアーの普及を試みました。

人間社会学域人文学類 4年 古田哲朗

【資料班の作業を振り返って】

企画展の準備にあたって、資料・キャプション班のリーダーとして、資料に関する情報収集や、解説文の作成などに務めさせていただきました。本年度はテーマや展示資料が事前に決定されているという特殊な状況でしたが、来場者に伝えたいことを実習生全体で共有し、パネル構成や資料の順番を自分たちなりにアレンジできたと思います。

最も大変だった作業はキャプション製作で、限られた文字数で必要な情報を伝えることの難しさを実感しました。解体新書のような有名な資料は特に情報が多く、班員と相談しながら必要な情報だけを選別してキャプションに載せました。パネルやキャプションに載せきれなかった情報も、できる限りミュージアムツアーに盛り込みました。一方で、撮影時期不明の集合写真のような情報が非常に少ない資料もあり、場所や時代に関連した情報を探しだして補いました。

私個人としては、明治以前の時代感覚がない、漢文資料が読めない、保存書庫への入り方がわからないなど、理系ならではの(?)の困難にいくつも直面しましたが、頼れる班員のおかげでなんとか乗り切ることができました。支えていただいた皆様に心より感謝申し上げます。

自然科学研究科 自然システム学専攻 博士前期課程2年 石川大智

【展示班の作業を振り返って】

展示班では、まず什器の配置や、どの什器にどの資料を展示するかを話し合いました。資料館の方から什器や資料のサイズと写真が記載された資料を貰い、実際に資料館へ行って什器の解説もしていただきましたが、



それでも実物を目の前に手に取りながら配置を考えるということとはできないため、イメージ通りに配置できるのかということに班員全員が不安に思っていました。そこで、展示図案は当日変更が加わることも想定して柔軟に対応できるように作り、絶対にこの資料はこういう展示方法にするというものには動かさないようにしようということに決め、班員全員がそれぞれ展示図案を考え、各案を組み合わせる最終的な展示図案を作成しました。

実際に展示作業が始まると、やはり展示図案通りに展示できないことが分かったり、より良い展示方法があると気付いたりして、その場で判断しなければならないことが多くありましたが、最初に変更を想定した話し合いを進めていたので、落ち着いて対応することができました。固めるところとゆとりを持たせておくところのメリハリをつけて作業に取り組んできたことが、展示作業やミュージアムツアー等、全体での作業にも活かされたのではないかと思います。

人間社会環境研究科 人文学専攻 博士前期課程2年 森田桃花

【デザイン班の作業を振り返って】

学生企画展ではデザイン班として、ポスターのデザインやキャプション、パネルの作成を担当しました。今回初めてイラストレーターやフォトショップといった専門的なツールに触れ、パソコン上でデザインしたり写真の切り抜き加工などを行ったり、デジタルでできることの幅広さに驚嘆しました。写真で見る前身校Part Iは教育的なイメージがより強かったため、Part IIではポップなイメージにしようとして話し合っただけで方向性を決めました。時間もあまり無く慣れない作業に苦労しましたが、どんどん形として出来上がっていく過程に大きなやりがいを感じ、協力して1つのものを完成させるのはとても楽しかったです。資料説明のキャプション1つをとっても、各フォントが統一されているか、行間は揃っているかなど注意する点が多く、このような細かい作業の上で展示会が成り立っているのだと気付いたことは大きな収穫です。今後博物館など訪れる際は展示資料だけでなく、デザインや照明にも注目するなど新しい視点から見るができると思います。



人間社会学域国際学類 4年 宮嶋千晴

開催案内

後 期
企 画 展

「寿ぎの季(とき)―『加賀藩年中行事図絵』と『儀式風俗図絵』にみる祝事(いわいごと)―」

会期 令和3年2月3日～3月19日 会場 資料館展示室

令和2年度金沢大学資料館後期企画展は、「寿ぎの季(とき)―『加賀藩年中行事図絵』と『儀式風俗図絵』にみる祝事(いわいごと)―」と題してお届けします。

金沢の浮世絵師、巖如春作の『加賀藩年中行事図絵』と『儀式風俗図絵』は、金沢大学附属図書館が所蔵し、これまでも報道各社から数多くのレファレンスが寄せられている資料です。藩政時代の加賀前田家における儀式、庶民の風俗が、史実に忠実に精緻な筆致で描かれており、写真記録のない時代を知る重要な手がかりとなっています。

今回は、これらの図絵から「寿ぎ」「祝事」をテーマに、春迎え(正月)の支度や婚礼の儀式、そして子どもの成長を願う行事について取り上げます。また、作者の巖如春が浮世絵師として、また郷土史研究者として当時の金沢で果たした役割についてもパネルで紹介し、ご来館をお待ちしております。



資料館での7年間(退任のご挨拶に代えて) 資料館長 奥野正幸



私は、3月末の退職をもって資料館長を退任いたしますが、資料館長に就任してから、あっという間の7年間でした。思えば、館長就任前から資料館委員として資料館に関わらせていただいて、時には、館長代理で「大学博物館等協議会」にも参加させていただきました。しかし、資料館長への就任は突然でした。前館長が任期途中で図書館長に就任されたため、当時埋蔵文化財調査センター長であった私に声がかかりました。それで、最初の1年間は埋蔵文化財調査センター長を兼任しながらのスタートでした。それでも、7年間無事に務めることができたのは、資料館スタッフならびに情報部の方々のお陰と心より感謝しています。この場をおかりして心より御礼申し上げます。さて、この間いろいろなことがありましたが、その中でも強く心に残っていることがいくつかあります。まず、2015年に金沢大学において資料館が中心となって実施した「第18回大学博物館等協議会・第10回日本博物科学会」では、多くの大学博物館関係者に参加いただき、シンポジウムでも活発な議論ができ成功裏に終えることが出来ました。さらに、2019年に資料館設置30周年を迎え、同年8月8日に累計入館者数10万人を達成できました。この年は私にとっては非常に感慨深い年となりました。しかし、最も重要な出来事は、館長就任当初から開催されている「学生企画展」であります。大学の使命の中で最も重要なものは教育であり、学芸員養成課程教育の最も重要な「博物館実習」として、展示の企画・準備などの全てを学生自身が行う「学生企画展」は資料館での教育の中心になりました。さらに、金沢大学資料館は、博物館機能の他に文書館としての機能を有しています。資料館は旧制第四高等学校を代表とする、金沢大学の前身校から引き継がれた文書ならびに金沢大学発足当時の文書を保有し、金沢大学の歴史を将来に伝えるという重要な使命があります。これに関連して、私には夢があります。それは、資料館が金沢大学の歴史を伝える大学公文書を将来に生かすために「国立公文書館等」に指定されることです。未だ夢は叶っていませんが、次期資料館長ならびに資料館関係者にこの夢を引き継いでいただければ非常に嬉しく思います。とりとめない話になりましたが、先の見えない新型コロナの嵐の中で、資料館関係者は力を合わせて事業を推進しておりますので、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。少し早いですが、長い間ありがとうございました。

編集後記

昨年は、コロナに始まりコロナに終わる1年でした。資料館では、3月から6月中旬まで休館することになり、新たな展示の公開準備ができているにもかかわらず開館できず、また、いろいろ計画していたイベントも飛んでしまふ歯がゆい思いをした1年でした。その中であって、学生企画展が制限のある中で充実した内容に仕上がりに、学生のみなさんのガンバリに感謝し、教育支援施設としての資料館の役割を果たせたと安堵しています。(土田 浩)

金沢大学資料館だより

第63号 令和3年1月発行



【発行/編集】 金沢大学資料館

〒920-1192 金沢市角間町
TEL 076-264-5215 FAX 076-234-4050
Mail museum@adm.kanazawa-u.ac.jp

<https://museum.kanazawa-u.ac.jp>